

**Q26b            The X-ray Pulsars in the Southern Part of the SMC**

今西 健介、辻本匡弘、横川 淳、小山 勝二 (京大理)

近年、小マゼラン雲 (SMC) において X 線パルサーの発見が相次いでいる。これまで知られていたパルサーがわずか 3 個なのに対し、この 1 年で発見された数は実に 11 個に及ぶ。このうち X 線衛星「あすか」は、単独で 5 つ、XTE と共同で 2 つのパルサーを発見しており、この「パルサーラッシュ」に多大なる貢献をしている。前回の学会では、横川がパルサーラッシュの総括的な話を行なったが、今回は、あすかが 1997 年 11 月 13 日に SMC 南部を観測した際に発見された 3 個のパルサーの個々の解析の紹介を行なう。各々の特徴を以下に述べる。

- AXJ0051-733  
周期 323.2sec。Optical による観測から Be star binary と同定されているので、確実に High Mass X-ray Binary Pulsar(HMXBP) であろう。Hard なスペクトル ( $\Gamma \sim 0.60$ )、激しい flux 変動といった特徴も確認されている。
- AXJ0049-729  
周期 74.68sec。Hard な非熱的スペクトル ( $\Gamma \sim 1.00$ ) を持つことと、以前の観測と比較すると激しく flux 変動していることから、Binary Pulsar だと考えられる。
- AXJ0049-732  
周期 9.1321sec。スペクトルは hard( $\Gamma \sim 0.86$ ) だが、flux 変動は確認されていない。